ドクダミ

ドクダミは、たいてい日の当たらないやや陰湿な場所に自生する。

毒下しの妙薬といわれるドクダミ、名前の由来は毒痛み（毒にも痛みにも効く）からとられたであろうと言われている。又、十種の薬に値する。十種の病気に効くということで「十薬」。重ねて薬になるということから「重薬」とも呼ばれる。佐賀の方言としては、この薬がクワド（ガマガエル）が好む湿りけのある所に生えていることから「ワクドグサ」。又、トベラグサ、ヘクソカズラ等とも呼ばれている。

昔から民間薬として広く使用されており、現在でもゲンノショウコ、ハブ茶と共に最もよく使われております。

日本のいたるところの生け垣の下や、裏庭などの日陰に生え、多年草でさかんに繁殖する。全草に特異の悪臭がある。この悪臭の成分はカプリンアルデヒド、ラウリンアルデヒド、デカノイルアセトアルデヒドによるものと言われている。白色の地下茎が横に走り、葉は卵状心臓形で、先端は急にとがり、紫紅色を帯びて、サツマイモの葉のような形をしている。梅雨のころ白色四庁の十字状の花を開き、ガクと花弁とがない細かい花の集まりである。「どくだみや真昼の闇の白十字」「どくだみの花の白さに夜風あり」等と吟まれて親しまれている。

採取時期は花期（梅雨の頃、この花の開花が梅雨入りの目安になる）で、この時に地上部全草を取り、日光に二日ほどあて、あと日陰干しして乾燥して適当の大きさに切り、紙袋に入れて貯蔵しておく。

薬　効

一成分のデカノイルアセトアルデヒドは、カビの発育をおさえ、白癬菌の水虫、たむし、いんきんたむしなどに抗菌性を示す。又、化膿菌に対して殺菌作用もある。

昔から腫物を吸い出すのと、毒下しとに用いられており、そのほかに痔疾患、鼻の病気、打撲、切り傷、毒虫にさされた時、カイセン、かさ、尿道炎、又、毛細血管強化作用もあるので、高血圧、動脈硬化、心臓病等にも用いられる。

使　用　法

はれもの　生の葉を火にあぶってやわらかくして、はれものの大きさに丸めて、患部にのせ、バンソウコウで止めておくと、早く膿を吸い出し、痛みも少なくてすむ。又は火であぶってからもんで汁を出し、それを患部に塗ってもよい。

痔ロウで痛みやかゆみのある場合　生の葉に塩少々入れて、すりつぶし、脱脂綿にのばして肛門にはる。干したもの20gを、水600㎖で40～50分火にかけて、その半量になるまで煎じて、一日三回に分けて飲む。

蓄膿症　一日20gを水500㎖で、半量まで煎じて、空腹時に一日三回に分けて飲む。少なくとも二ヶ月以上連用しなければ効果があらわれない。生の葉4～5枚を塩でよくもみ、汁の出るくらいにして、まるめて鼻の穴の片一方に挿入し、30分位で鼻をかむと、ウミのような鼻汁が出でくる。これを一日3～4回行うと非常に効果がある。又は、夜床につくときに、鼻の穴片一方につめ、そのまま寝て、約5時間程経過したらとり、鼻をかむと、悪臭のある膿液が出る。その後、もう一方の鼻の穴に同じように寝て、翌朝起床のときに同じように鼻をかんで膿液を出す。一日だけでも翌日は更生したようにさわやかな気分になり、3～4日後には、吐く息にも不快な悪臭がなく、膿液も少なくなってくる。2～3週間続ければ、膿汁がすっかりとれてしまいます。

高血圧、動脈硬化　干したもの20gを煎じ、毎日お茶がわりに飲む。狭心症、動脈硬化を予防し、脳出血の予防にもなる。

腰痛、冷え性、痔　煎汁を浴剤として利用する。よく温まり効がある。

水虫　生葉を塩でもんで、やわらかくして患部にあてる。

便秘　15gを煎服する。2～3日続けても排便のない時は、増量してセンナ葉15枚位加えるとよい。又、ドクダミ15g、大黄2gを合せたものを煎服するとよい。

にきび　ドクダミ30gとハトムギ皮付きの粉末20gを一日量として煎じて服用する。又、ユキノシタの生葉とドクダミの生葉をすり合わせたものを患部にはる。

ジン麻疹　ドクダミ20g、ゲンノショウコ20g、決明子（はぶ茶）20gを合せたものを一日量として煎服するとよい。

毒下し　ドクダミ12gと忍冬8gを一日量として煎服する。

いぼ　ドクダミ15gとハトムギ20g合わせたものを煎服する。

髪を美しくするには　ドクダミ15g黒豆25gを煎じてお茶代りに服用する。

夜尿症　ドクダミを濃く煎じて、さかづき一杯ずつ、一日5～6回服用する。

養正会薬局　（鍵山）

知っていますか？ おばあちゃんの知恵

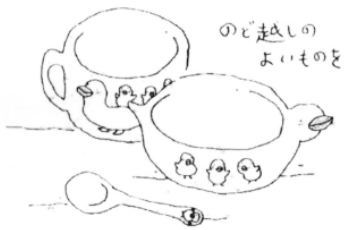
熱くなって、汗ばむ季節になってきますと、わきがは、他人はもとより自分自身もいやなものでございます。わきがは、腋(わき)部の汗が悪臭を放つもので、多汗症を伴うことが多く、その発汗によって悪臭が、一層増加するそうです。これには、焼ミョウバンをガーゼに包み、打(うち)粉にして腋窩(えきか)につけたものです。ミョウバンはなめてみるとわかるように、きゅっと舌が引きしまり、唾液が止まってしまうことから、汗を止める作用が大きいことがわかります。

薬剤師　高木　丈夫

こどもの病気シリーズ

手足口病

春から夏にかけて流行する病気で、夏風邪のウィルスの中でも、主にコクサッキーウィルス16型、エンテロウィルス71型が原因となって起こります。赤ちゃんもかかりますが、保育園や幼稚園など、集団生活をしている幼児に多く見られます。潜伏期間は2週間くらいで、その病名のとおり、手のひら、足の裏、口の中、周囲が赤くて、真ん中が白い米粒大の水泡ができます。手足にできた水泡は、少し痛がゆいのが特徴です。口の中にできた水泡は、頬の内側、舌、歯ぐきや唇にもでき、それが破れると痛く、よだれがたくさん出てきたり、食べ物や飲み物がしみるために、食欲がなくなり、機嫌が悪くなる時もあります。いつもより、いやにぐずり、哺乳ビンを受け付けなかったり、食事を嫌がる時は、口の中を見てみて下さい。



症状・・・時には、下痢や嘔吐など胃腸症状を起こすこともありますが、たいていの場合は、手足口に出る水泡が主な症状です。熱は出ても38～39度ぐらいで、1～3日程度で下がります。口以外の所にできた水泡は、破れることもあまりなく、たいていは1週間ぐらいで自然にしぼんでしまいます。口内炎も1週間くらいで治ります。

家庭でのケア・・・熱も高くなく心配のいらない病気ですが、口内炎が痛むため食欲がなくなります。熱いもの、塩辛いもの、硬いもの、酸っぱいものを避けて、口当たりの良いものを回数を分けて食べさせましょう。それでも食べないときには、とにかく水分だけでも取らせて下さい。お風呂は発疹が消えてからがよいでしょう。熱がなければシャワーなどでさっぱりさせてあげましょう。

養正会薬局　薬剤部